

ダチョウ飼育に関する研究V

生物生産コース 飼育技術専攻班 3年増原泰雅 辺見直樹 三谷茂
大西理沙 横関成美

私達飼育技術専攻班は平成15年より、地域の農業振興を目指して新家畜ダチョウの飼育研究に取り組んでいます。

- ①夏の暑さや冬の寒さにも耐える強さを持っている
- ②草を主とした給餌で粗食に耐え飼料効率も高い
- ③排泄物の掃除の手間が無く畜産公害が無い
- ④簡単な施設で飼育することができる
- ⑤採卵状態がふ化率を大きく左右する
- ⑥えづけ、育すう段階は技術的に最も難しい



多くのヒナの育すうに成功

今年度は育すうに関しては大きな進歩が見られ、湿度管理、給餌方法の改善等、飼育環境を見直すことで育すう率がアップし、昨年度の2倍のヒナの育すうに成功しました。



移動は大変！

また昨年初めてえづけに成功し、屋外に出すことができたダチョウの初出荷に取り組みました。10月29日早朝、1才を過ぎたダチョウをトラックに積み込みました。体は2m、100kgあまりあるので出荷も大変でした。できた肉は専攻生で精肉しパック詰めを行い、楓祭で販売しました。試食コーナーも設けましたが、低脂肪、低カロリー、低コレステロールの健康食材として、午前中で全て無くなる程の盛況でした。

11月6日は生物生産コース2年生でダチョウの解体実習を行いました。愛媛県から講師先生を招き、1羽のダチョウを手際よく解体していきました。体の仕組みや加工の仕方がよくわかりました。1羽のダチョウから約30kgの肉を得ることができました。

今後は肉等の生産物の販路拡大に向けて、取り組んでいきたいと考えています。



待望の初出荷



精肉加工